

ポートランド市からの贈り物

ベンソンの水飲み

大通公園の二丁目に、ちょっとしやれた形の水飲みがあるのを知っていますか。その水飲みにまつわる話を紹介します。

一九〇〇年代初頭、アメリカ、ポートランド市。郊外で木材を切り出していた労働者たちは、町に出ると、飲料水が見つけれないために、いつもビールを飲むのが習慣となっていました。彼らの雇い主、サイモン・ベンソン（一八五〇〜一九四二年）はそれを見るたび、「困ったものだ。何とかして、彼らのアルコールをやめさせたい」といつも思っていました。

そんなある年のアメリカ独立記念日、ベンソンは、町でのどが渴いたといつて泣く少女の姿を見ました。それをとても哀れに思った彼は、大正元年（一九一二年）、水飲み場を作りポートランド市に寄贈しました。

ベンソンは、昭和十七年に亡くなりましたが、公

園などに二十カ所以上できた水飲み場は、今でもポートランド市民に親しまれています。

札幌市とポートランド市が姉妹都市になって七年後の四十一年に、ポートランドの市民は、自分たちがよなく愛する水飲みと同じ形のを、札幌の市民に友情の印として贈ったのです。

この心温まる由来を持つ水飲み。いつまでも大切にしたいですね。

（平成九年八月号・第四十回）



ベンソンの水飲み（大通西2丁目）